

氏名	櫻井育穂	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学、思春期看護学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1997年北里大学看護学部看護学科卒業、2007年北里大学大学院看護学研究科博士前期課程修了				
経歴	2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本小児看護学会（診療報酬検討委員会委員）、日本小児がん看護学会、日本思春期学会、日本小児保健協会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	成人移行支援コアガイド	共著	なし	瑞穂印刷株式会社、全85頁	慢性疾患を持つ患者のための成人移行支援コアガイド作成委員会(窪田満、加藤均、掛江直子、本田雅敬、櫻井育穂、他)	2020.1
2						
3						
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
2						
3						
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護記録監査表の改訂による看護師の認識変化	共同		日本小児看護学会第29回学術集会、札幌	○田村佳士枝、添田啓子、櫻井育穂、他	2019.8
2	子どものセルフケア能力・親のケア能力を高める看護援助に関する文献検討	共同		日本小児保健協会第66回学術集会、東京	○長谷美智子、櫻井育穂、他	2019.6
3						
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2						
3						
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)			小児慢性疾患患者の成人移行期支援における患者家族中心の教育プログラムの開発・評価	研究代表者	2019.4～2022.3
2	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)			子どものセルフケア、親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の定着・評価	研究分担者	2019.4～2021.3
2	平成29年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））			「小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個性を超えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究」	研究分担者	2017.4～2020.3

3	ファイザーヘルスリサーチ振興財団 (2019年度) 国内共同研究助成	小児リウマチ性疾患の成人科移行 におけるoutcome評価指標の確立	研究分担者	2019.12~2020.11
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅱ		2コマ	先天性心疾患をもつ子どもと家族への看護、および障害をもつ子どもと家族への看護について、理論やガイドライン、学術論文等を参考に講義を行い、看護国家試験における状況設定問題への対策として、上記疾患の病態生理・治療・看護について事例を用いた。
2	IPW論		14コマ	科目担当者として学生が積極的にグループワークや講義に参加できるよう支援した。
3	看護倫理 (大学院)		2コマ	4名受講。担当者として小児看護における倫理的課題 (IC,代理意思決定、プレバレーション) について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の学習内容及び実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
4	小児健康生活論 (大学院)		8コマ	4名受講。担当者として小児看護における家族の発達・理論等について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅲ	○	16コマ	学内実習を伴うPBLチュートリアル学習方法を用い、学生が自主的に学習できるよう、科目責任者として円滑化を図り、且つチューターとしての役割を果たした。シミュレーションを通し、事例のイメージ化を図り、事例シートは実習等で活用できるよう、小児看護に特徴的な疾患3事例をより臨床に即したデータや病状を用い作成した。
2	子どもの保健	○	16コマ	講義形式による知識・役割理解を促し、その後演習を実施。演習シートを作成し、技術演習の方法に加え、ケアの根拠や臨床上のポイントを記し学生の評価を得た。
3	小児看護学Ⅳ		15コマ	事例に即した、小児看護学特有の看護技術についてロールプレイ等を用いて指導し、実践における根拠を検討できるようファシリテートした。また、技術テストを実施することで安全への意識を高めた。
4	小児看護援助法Ⅰ (大学院)		9コマ	2名受講。担当者として小児看護専門看護師の活動として、子どもの権利をめぐる倫理的問題と権利擁護、専門看護師が行う倫理的判断や意思決定支援について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
5	小児看護援助法Ⅱ (大学院)		15コマ	2名受講。担当者として小児看護専門看護師の6つ役割の実際として、小児看護専門看護師とともに、学生の学習と実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
6	看護学演習 (小児看護) (大学院)		4コマ	2名受講。担当者として、学生自ら小児看護におけるフィジカルアセスメントを学習し、その内容を踏まえ、1名以上のフィジカルアセスメントを実施してもらい、その内容をプレゼンテーションしてもらい、学生と共にディスカッションを行い理解を深めた。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2019.8、10～12	1クールずつ2週間実習を4クール実施。子どもの権利を理解し、対象を理解し統合的に捉え看護の必要性と方向性を考え、実践・評価できるよう、1クール中にカンファレンス（毎日）・看護記録の助言（毎日）・個別面接（2回）実施。さらに、医師からの臨床講義を調整し、学生の疾患の理解を深めた。また、子どもの安全・安楽を守る事ができるような臨床指導者との連携のもと付き添うことで、事故なく実習を終え成果を上げた
2	総合実習		2019.4～8	自分の課題や技術力と対峙し、課題を探究できるよう、ゼミを行い実習計画書を作成。その後3病棟（各病棟4～5名）で、実習を行った。実習中はカンファレンス・看護記録・個別面接を実施。また、安全・安楽に対象者へ看護介入できるよう担当教員への助言や臨床指導者と連携し、成果を上げた。さらには最終報告会を実施し、学生の小児看護に対する理解を深めることができた。
3	IPW実習	○	2019.4～10	メイン科目責任者として円滑な実習運営のため、準備・オリエンテーションを実施し、学生及び担当教員のサポートを行った。また、施設担当者と連携し、演習が円滑に行えるよう助言し、実習中は学生の面談等を実施した。最終発表会では施設の指導者からも良い評価を得た。
4	小児実践看護実習Ⅱ（大学院）		2020.1～3	2名受講。小児専門看護師の役割（実践機能、調整機能（倫理調整を含む）、コンサルテーション、教育機能）の実際を高槻病院にて実習するため、実習要項及び計画書の作成を指導した。また、実習中はweb面談を通し、学習内容への指導と、困難感への精神的サポートを行った。更に、実習の報告会に向けた学習支援を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主旨導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業研究	2019.4～2020.3	主旨導	4名
2	修士論文	2019.4～2020.3	主旨導（指導教員）	名
3			副指導（指導補助教員）	2名
			主旨導（指導教員）	名
			副指導（指導補助教員）	名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	博士前期課程論文審査	2020.2	副査1名	
2	学生への就職相談・調整	2019.4～2020.3	卒研・総合実習等を通して学生の就職相談や調整を実施した。	
3	担任学生への進路相談・指導	2019.4～2020.2	担任学生への年2回の面談と、個別学生への面談等を通して学生の進路相談や指導を実施した。体調不良学生へのサポートを行った。	
4	大学院生への学習・実習相談	2019.4～2020.3	CNS課程2名の学習方法や実習内容に関する助言、研究や学習方法に関する助言・相談等を行った。	
5	卒業生へのキャリアアップ相談	2019.8、10、2020.1	卒業生へのキャリア形成について相談および助言を行った。	
6	第7回臨地実習指導者研修会ファシリテーター	2020.1.30	実習施設の臨床指導者間の意見交換が活発になるようファシリテーターとして介入した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	オレムワークショップ（看護過程研修会）及びオレム推進連絡会	埼玉県立小児医療センター	看護過程研修会および事例検討会にて、オレム理論に基づく実践に関するファシリテート（年6回）	2019.6～2020.2
2	第29回日本小児看護学会学術集会におけるテーマセッション	日本小児看護学会	平成30年度の診療報酬改定に関するテーマセッション	2019.8
3	第29回日本小児看護学会学術集会におけるテーマセッション	日本小児看護学会	2019子どもセルフケアカンファレンス	2019.8
4	第66回日本小児保健協会学術集会におけるシンポジウム	日本小児保健協会	成人移行支援—実際にどう取り組むべきか—	2019.6

5	小児看護人材養成事業	日本小児看護学会	人材養成に関する教育プログラムと、e-learning教材の作成	2019.4~2020.3
6	成人移行期支援フォローアップ講座	思春期看護研究会	成人移行期支援に関する講演会の企画・運営	2019.11
7	思春期学会会員のための成人移行期支援ガイド	日本思春期学会	ガイドブックのプログラム作成及び原稿執筆、担当者との調整	2019.4~2020.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	日本小児看護学会		診療報酬検討委員会	2019.8~2020.8
2	思春期看護研究会		事務局長及び総務会計	2013.4~2020.3
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	夢ナビライブ2019	講義「病気を持つ10代の子どもの成長発達支援」と進路相談会		2019.6
2				
3				
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	2年学生担任		2019年度
2	学科等における委員会等	看護学科 カリキュラム運営検討委員		2019年度
3				
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				